

# 様式第1号(英語指導法改善研究)

普小発第59号  
令和5年6月15日

宜野湾市教育委員会  
教育長 仲村 宗男 殿

学校名 宜野湾市立普天間小学校  
校長名 與座 衛



## 指定研究計画書

### 1. 研究主題名

コミュニケーションの資質・能力を育む指導の工夫  
～児童が主体的に伝え合おうとする言語活動を通して～

### 2. 研究主題設定の理由

本市では、小学校英語教育課程特例校事業として、「児童生徒の生きる力の育成及び国際化の時代に必要な外国人との実践的コミュニケーション能力の基礎を育むこと」を目的とし、各小学校において英語教育を実施している。本校では、HRTとALTとのチームティーチングによる指導を行い、児童も英語の時間を楽しみにしており、意欲的に参加している。

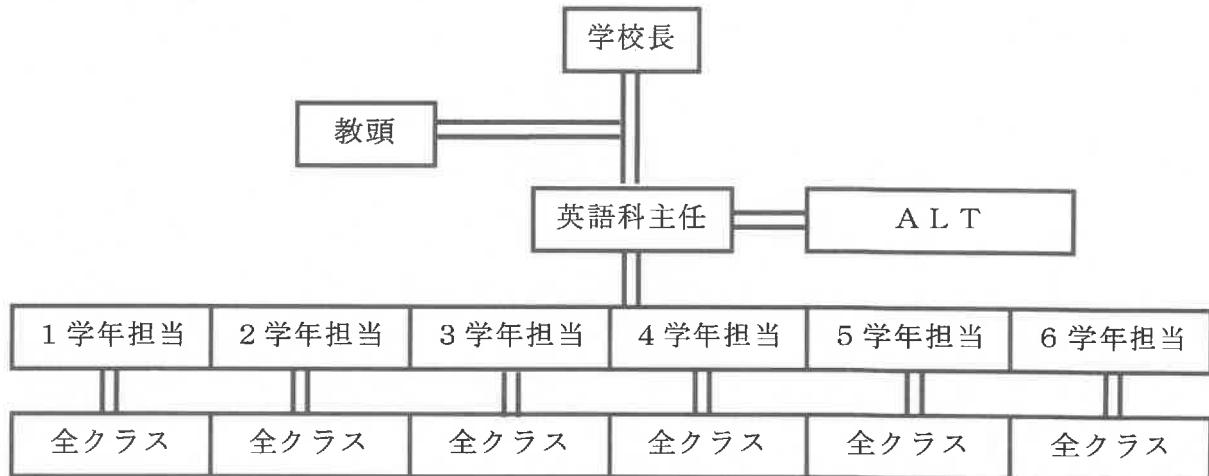
授業では発達段階の応じた語彙の獲得や挨拶、簡単な日常会話のスキル、歌やゲームなどを通した楽しい英語に加え、学校行事や他教科と関連させたクロスカリキュラム的な方法で外国語への興味関心を高めてきた。しかし、このような活動だけでは与えられた形式をただ声に出しているだけで、思考力をあまり働かせなくともできてしまう。そこで、児童が潜在的に持っている「友達と気持ちを伝えたい」という積極的な態度を喚起する授業の工夫を行えば、学びの質が向上しコミュニケーション能力の素地の育成につながるだろうと考える。さらに、伝え合おうとする積極的な態度を喚起する言語活動の充実を図り、相互交流のあるやりとりを工夫することで、児童の外国語活動におけるコミュニケーション能力の素地を育成する。

そこで、本年度は様々な指導法や体験的な活動を通しての言語の習得を行いながら、英語に親しみ身近な日常会話の場の設定ややりとりの工夫を行っていく。本校では、CAN-DO シートを活用しゴールを見据えたプランニング(バックワードデザイン)を作成している。授業計画の段階から HRT と ALT が連携して単元ゴールを設定しスマールステップで小単元のゴールを設定しコミュニケーション能力の素地の育成を目指している。また、授業内だけでなく休み時間や給食時間、クラブ活動等においても ALT との関わりを通して日常的に英会話を楽しむ児童を育てていきたい。本年度もこれまでの成果をベースにして、積極的にコミュニケーションを図り、伝え合おうとする積極的な態度喚起する活動の実践を目指していきたい。

### 3. 学年・領域

英語科(全学年)

### 4. 研究主任と組織



### 5. 年間研究計画

	計画内容
一学期	<ul style="list-style-type: none"><li>○英語の時間割スキル ○校内研修(英語の授業の進め方・年間計画表)</li><li>○英語の授業スタート(4月12日～)</li><li>○小学校英語スキルアップ研修会への参加</li><li>○授業力アップ研修会への参加</li></ul>
二学期	<ul style="list-style-type: none"><li>○小学校英語スキルアップ研修会への参加</li><li>○形成評価的評価(低学年・中学年)</li><li>○児童英検実施(高学年)</li></ul>
三学期	<ul style="list-style-type: none"><li>○実施報告書まとめ</li><li>○次年度の計画</li></ul>

### 6. 校長所見

本校は ALT が2名配置され、低学年から英語に触れ、親しむ機会があり、英語活動を児童も教師も一緒に楽しんでいる。

研究主題として「コミュニケーションの資質・能力を育む指導の工夫」を掲げ、サブテーマとして「児童が主体的に伝え合おうとする言語活動」を全職員一丸となって取り組んでいく。

本校の児童は、これまでの英語の授業を通して、語彙の獲得や挨拶、簡単な日常会話などを各学年の発達段階のスキルを身に付けてきている。しかし、このような活動だけでは与えられた形式をただ声に出しているだけで、思考力をあまり働かせなくてもできてしまう。

そこで、学級担任と ALT が連携して、授業の質を高める工夫改善を行い、単元を貫くゴールを見据えたプランニングを基に授業実践を行うことで、コミュニケーション能力の素地をはぐくむ指導の工夫を行っていく。